

## 第 74 回山形県自作視聴覚教材コンクール 全体講評【児童生徒作品部門】

進学や就職を機に都市部へ出ていく若者も多い中、地域の歴史を調べ、教材化していく取り組みは、郷土理解を深め、郷土を思う気持ちを醸成することにもつながる。今後もぜひ継続してほしい学習活動である。学校での学習だけでなく、家庭で親子が協力して作品を作るケースもあり、ほのぼのとした交流の様子がうかがえる点も魅力的である。また、ウェルビーイングなど現代的な課題について、若い世代から関心や問いかけが生まれていることも意義深い。作品制作においては、動画やプレゼンテーションソフト、紙芝居、すごろくなど、多様な表現方法が活用され、ICTの活用や編集技術の向上も感じられる。

課題として、作品によっては情報量が多く、流れが散漫になりやすい場合もあるため、主張を焦点化し、余分な要素を精選することで、より伝わりやすく切れのある作品になるだろう。アプリや制作機器に頼るだけでなく、「何を伝えたいか」を明確にすることが重要である。調べ、体験した学びを楽しみながらまとめる姿勢は、見る側にも伝わり、学びの深まりにもつながる。学校での総合的な学習(探究)の時間や家庭での会話などが児童・生徒の関心に大きく影響するため、地域性を大切にしたい取り組みを進めていただきたい。また、こうした学習成果を教材化する方法が多くの学校に広がり、映像やプレゼン、紙芝居、すごろくなど多様な表現へ挑戦していくことを期待している。